

4 小学校における英語教育の在り方に関する調査研究
研究代表者 中岡 司（教育課程研究センター長）

①研究の趣旨、ねらい

研究協力校を対象に小学校における英語教育の基礎データを数多くの指導方法・指導内容とともに分析し、もって今後の小学校における英語教育の参考となる資料を提供する。

②研究成果の概要

○研究協力校全53校からデータを収集することができた。

〔内容〕・実施状況・カリキュラム等に関する詳細なデータ

- ・教材等の具体物
- ・目標別調査データ
- ・児童質問紙調査 等

○研究協力校全53校を訪問し、授業を見学するとともに、学校長及び英語活動等の担当教師からヒアリング等を行った。

○平成21年2月に研究報告会の開催及び同年3月に研究成果報告書を作成した。

・研究成果報告書内容・目標別調査結果のポイント

【リスニング調査】

- ・年間授業時間数が増えるにつれ正答率が上昇するが多かった。
- ・英語に対して意欲的であるほど、聞き取りクイズで正答しやすい傾向を示した。

【スピーキング調査】

- ・同一の問題について、第5学年次よりも第6学年次の方が、正答率が高く、無回答の割合も低かった。

【アルファベット調査】

- ・アルファベットを読んだり書いたりすることについて「大切だ」と感じているが、学習経験が増えるほど、「楽しさ」に関しては否定的な意見も増えていた。

③中期目標との関連性

○学校と連携したより実地的な調査研究の推進

文部科学省で平成19年度より実施している「小学校英語活動等国際理解活動拠点校事業」において、委嘱先の都道府県教育委員会より当調査研究の児童用質問紙調査問題等を活用したい旨の申し出があった。

○教育行政機関、教育関係者又は国民一般に対する教育政策やその研究に関する情報の収集・整理・発信

「小学校における英語教育の在り方に関する調査研究」研究報告会におけるアンケート調査において、アンケート調査回答者328名のうち247名が役立

つ情報が得られた」、255名が「有益な資料が得られた」（ともに複数回答可）と回答した。

○中期目標期間中に重点的に取り組むべき課題

子どもの学力向上④小学校における英語教育の在り方

本調査研究においては、従来まで小学校における英語教育についての実証的データはほとんど存在しない中で初めて、自治体の研究協力校を対象とした実証的な調査を行うことができた。併せて、実際に訪問した研究協力校の優良事例を公表することができた。

④本研究に盛り込まれている主なデータ項目

- 学校用質問紙調査
- 児童用質問紙調査
- 目標別調査
 - ・リスニング調査
 - ・スピーキング調査
 - ・アルファベット調査
- 学年主任用質問紙調査

⑤今後の研究予定

○文部科学省が平成20年度より実施する「英語教育改善のための調査研究事業」の調査研究校において、その取り組みを進める際、当調査の研究協力校の取組や調査問題等を参考としている。

○新学習指導要領の小学校外国語活動実施が円滑に行われるように報告書の配付を幅広に行い（市区町村教育委員会等に約2,500部配付）、併せてHPに掲載する等の周知を行った。

また、引き続き、教育課程調査官が学習指導要領内容の普及徹底をはかる講演や指導助言等の中で当報告書の内容について触れ、周知を行う予定である。

⑥キーワード

- (1) リスニング調査 (2) スピーキング調査 (3) アルファベット調査
- (4) 学校用質問紙調査 (5) 児童用質問紙調査 (6) 目標別調査
- (7) 学年主任用質問紙調査 (8) 研究協力校

⑦本研究の研究報告書

○「小学校における英語教育の在り方に関する調査研究」成果報告書

http://www.nier.go.jp/shoei_h20/shoei.html

⑧関連する先行研究や参考となる研究等

○特になし